

インクルーシブ保育におけるリトミック活動の観察を通して

松 井 い ず み

Through the observation of Eurhythmics activities in Inclusive Early Childhood Education and Care

Izumi MATSUI

論文要旨

これまで、健常児を対象とするリトミック教育や、障がい児を対象とする音楽療法など、音楽を使用した活動は多く取り上げられてきた。しかし、通級に特別な支援を必要とする子どもが多く在籍する今、インクルーシブ保育における音楽活動を模索していく必要がある。本研究では、インクルーシブ保育におけるリトミック活動の様子を観察し、分析及び考察を行なった。

キーワード リトミック、インクルーシブ教育、特別支援、保育者

はじめに

近年、特別支援学校や特別支援学級に通う幼児児童生徒は増加しており、通級により指導を受けている児童生徒も平成5年度の制度開始以降増加している。文部科学省が平成24年に実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、約6.5パーセントの対象児童生徒が通常の学級に在籍している可能性があるという結果が示された¹⁾。

筆者は保育園で音楽を教え15年以上経つが、最近はクラスの中に特別な支援を必要とする子どもが多くなってきたと感じる。そこで、リトミックを中心とした自分の活動風景を数回ビデオに収め、クラス全体の様子や、支援を必要とする子ども、そして保育者の動きを観察し、分析することとした。本稿では、固定されたカメラの映像に、支援を必要とする子どもと保育者の動きが一番多く録画されていたA男の所属する4歳児クラスを取り上げ考察する。

1. インクルーシブ保育について

文部科学省は、特別支援教育として「障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援」を行い、「厚生労働省との連携により、保育所も支援対象機関に加える」としている²⁾。保育所において1970年代に通常の保育に障がい児を受け入れる統合保育が始まり、1974年には厚生労働省より「障害児保育事業実施要綱」が通知された。インクルーシブ保育によって、特別な支援を必要とする子どもと、通常級の子どもたちが共に育ちあうことができるだろう。しかし、実際に実施する園や保育者にとっては、常に手探りの状態で最善を尽くしている現状がある。本稿で取り上げた園は、保育者の人数を勘案しながら障がい児の受け入れを行っているが、受け入れについては各園の判断に任されているため、実施をしていない園も多く存在する。

2. 保育者への聞き取りから

現在、一般の保育所で障がい児を保育する場合には、保育者を増員することができる加配と

いう制度があるが、この園では加配を行っておらず、必要があればフリーの保育士を配置することで賄っているとのことであった。理由として、加配制度を利用するためには、園だけでなく保護者からの申請も必要であり、障がいの重度によっては、加配を必要とする子ども一人だけでは制度が利用できないことや、乳児が障がいの診断をされてから入園してくることは少ないことが挙げられる。乳児期から保育をしていく上で徐々に気になる行動が見られ、それを保育者が保護者に伝え、在園中に診断名が付くことが多い。保育者にとって一番気使うのは、気になる子どもの保護者に、専門の診察を勧める時とのことであった。この点については「とりわけ、軽度発達障害児をめぐる問題の中には、家庭と保育所・幼稚園で示す姿が大きく異なるため、保護者と保育者が子どもについての理解をなかなか共有できない」³⁾というように、多くの保育者に共通する悩みであろう。子どもが大勢いる保育園だからこそ、気になる行動に気付くことが多く、家庭の中では障がいが目立たないことがあるため、保護者の気持ちに配慮することが大切である。この園ではまず、気になる子どもの状態を保育者全員で共有し、保護者の環境などを鑑みながら伝え方を丁寧に話し合っているとのことであった。本稿で取り上げたA男も在園中に診断を受け、現在専門家の指導を受けている。また、年に1～2回程度、療育センター等の専門機関がこの園を訪問する機会がある。今後も更に保育者の人数や専門的な知識、保育者間や、保護者、専門機関との連携が大切となっていくだろう。

3. 観察対象について

(1) A男の概要

- ・4歳の男児である。
- ・A男の診断名は「自閉症スペクトラム」^{注1)}である。園の担当医には、他に「ひざが曲がりにくい」と診断された。
- ・療育医療センターの他に、発達の気になる

子どものための幼児教室（児童発達支援事業所）に通っている。

- ・祖父母、両親共に外国の出身である。両親はA男に日本語で話しかけているため、A男は日本語を知っているが、話すのは2語文程度である。祖父母は日本語がわからず、保育園のお迎えに来てでも保育者と会話をすることはない。
- ・気分の良い時と悪い時に「グー」とうなるような声を出す。保育者が「それは嫌よ」と忍耐強く教えているため、減ってきている。
- ・嫌な時はきちんと意思表示をする。鍵盤ハーモニカの活動の時にはうつ伏せになって声を出して泣き出した。
- ・音楽は大好きなようで、歌う時に言葉は追いつかないが、とても良い表情をしている。また、楽しい雰囲気曲の時には片手をぐるぐる回すなど、嬉しい気持ちを表現したり、逆に片手をぐるぐる回して見せて、講師である筆者に曲をリクエストしてくることもある。
- ・車を好み車種に詳しい。また、毎回必ず筆者の車の鍵を触らせてほしいとせがむ。
- ・クラスの子どもたちからは好かれているようである。

注1) 近年自閉症、アスペルガー症候群を別個の障害と捉えず自閉症スペクトラムという考えが普及してきている⁴⁾。主に社会的相互作用の欠如や、想像力の欠如が見受けられる。

(2) クラスの概要

- ・4歳児クラス20名（男児12名、女児8名）である。
- ・A男の他に特別な支援を必要とする子どもが数名在籍している。

(3) 保育園と保育者の概要

- ・0～5歳児までの約90名が在籍する認可保育園である。

- ・このクラス(4歳児)の保育者は2名である。リトミック活動の間は、保育者aは主にクラス全体を見守り、保育者bは主に支援を必要とする子どもを担当する。
- ・担任のみならず園の保育者が皆A男のことを可愛がっている。

(4) 観察した活動内容の概要

- ・カラフルな薄いスカーフを使用し、音楽に合わせて身体を動かす活動。使用曲の内容は以下の通りである。

活動例1 『ぶんぶんぶんーん』

(作詞作曲 松井いずみ)

講師が一緒に歌って動いたり、ピアノで伴奏をする。音楽的感性、情緒性や想像力などを育てる。

歌詞：「♪ぶんぶんぶんーん、しゅわしゅわわー
なんの形になるかな」

内容：歌いながら、リズムやニュアンスに合わせてスカーフ(身体)を動かす。最後に上へ放り投げ、落ちてきたスカーフは触らずに床に落ちるのを待つ。床に落ちたスカーフの形を見て、何に見えるのか考えたり、身体でスカーフの形を模倣する。

活動例2 『なわとびであそぼう』

(永野光浩『心と体を育てる2.3歳児からのリトミックリズムであそぼう』オブラパブリケーション)

ピアノ伴奏ではなく、CDを使用するため、講師が声をかけながら子どもたちと一緒に動くことができる。今回はなわとびではなく、スカーフを使って応用した。音楽的感性、聴く力、判断力、想像力などを育てる。

内容：行進の音楽、波の音、へびを表したポヨヨ〜ンという音、子どもたちが「変な踊り」と呼んでいるアラビア風のメロディーなどがランダムに入っており、音

楽を聞き分けて身体やスカーフを動かす。子どもたちはキャーキャーと盛り上がるが、次々と音楽が変わるため、すぐに静かになり耳を澄ませる。

4. 時系列で追った子どもたちと保育者の様子

活動内容を「活動時間」、「活動内容と講師の動き」、「クラスの子どもたちの動き・様子」、「A男の動き・様子」、「主にクラス全体を担当する保育者aの動き・様子」「主に支援を必要とする園児を担当する保育者bの動き・様子」に分けて観察した。(表1・2)

(1) A男の動きと様子に関する考察

A男の動きを観察して一番明確になったのは、音楽が明るく拍感のはっきりとした曲に変わると、クラスの子どもと同様に歩き始める場合が多いということであった。床にお尻を付けて座りスカーフで遊んでいても、行進の音楽に変わると、それまでの動きを止め、立ち上がりリズムに合わせて歩き出す。自然と体を動かしたくなる音楽の本質的な力であろう。そして、A男が一見、音楽と関係のない動きをしているようであっても、実は音楽を聴いていると

ということがわかる。また、この活動で使用したスカーフの質感を気に入り、振ったり頭に被ってみるなどして終始楽しんでいる様子が見られた。

また、活動1でスカーフの形を何かに見立てる際には、クラスの子どもたちから興味を誘うような単語が聞こえてきた時にスカーフの方を見ているようであったが、それをじっと見入るようなしぐさはなく、想像したり、他者の考えを共有しようとする様子は見られなかった。しかし、楽しい雰囲気の中で、健常児と共にこのような見立て遊びの経験を重ねていくことで、A男の想像力や協調性を育むことができるのではないかと期待する。

リトミックのアナクルーシスを必要とする場面、例としてスカーフを投げる際には準備が間

表 1 活動例 1

	活動内容と 講師の動き	クラスの園児たちの 動き・様子	A 男の動き・様子	保育者 a の動き・様 子（主にクラス全体 を担当）	保育者 b の動き・様 子（主に支援を必要 とする園児を担当）
10:30	『ぶんぶんぶん』 子どもたちの前に 立って、歌いながら スカーフを振り、お 手本を見せる。 投げたスカーフが床 に落ちる。 「ことりに見えな い？」 「みんなもやってみ ますか？」 スカーフを配る。	椅子に座り、講師の 動きとスカーフに注 目している。 スカーフを見て「へ びー！」（へびの形に 見える）などと口々 に発言する。 「貝！」「水たまり！」「 ネックレス！」「 かたつむりー！」 身を乗り出して想像 している。 椅子に座ったまま、 順番にスカーフが配 られるのを楽しみに 待っている。 スカーフを受け取っ た子から立ち上が り、保育室の中の広 い場所を探して準備 している。跳びはね ながらスカーフを振 るなど、嬉しそうに して待つ。	他の子と同じように 椅子に座って見てい る。（保育者が横に座 ることができ、尚且 つ A 男もクラス全体 の様子が見えるよう に、一番後ろの端に 配置されている） 身を乗り出して講師 のスカーフを指差 す。 保育者に何か話しか ける。 手のひらを上にし て、何かを考え伝え ようとしている。 腕を伸ばしてスカー フを指す。 両手をパチパチして 喜んでいる。両手を 出してスカーフを欲 しがる。 椅子に座ったまま受 け取ったスカーフを 広げて眺めている。 スカーフの質感を確 かめ、楽しんでいる 様子。	子どもたちの横に立 ち、クラス全体を見 ている。 笑顔でクラスの様子 を見守る。 発言している子ども の方を見る。 全員にスカーフが行 き渡るように、ス カーフを配る。	A 男の横に膝をつい て座っている。一番 後ろの端であるた め、クラス全体を見 ることもできる。 A 男に顔を近づけて 同意するポーズ。 笑顔でうなずく。 立ち上がる。 まず A 男にスカーフ を渡した後、全員に スカーフが行き渡る ように、スカーフを 配る。
10:35	ピアノ伴奏をしながら『ぶんぶんぶん』 を歌い始める。 「何ができたか聞き に行くので、座って 待っていてくださ い」	歌いながら大きく動 き、スカーフを投げ る。 B 子が C 子のスカー フの上に間違えて 座ってしまい、悪い と思ったのか泣き出 す。被害を受けた C 子はそのまま活動に 戻る。	広い場所へ移動し、 周りの子と似た動き をする。動きは大 ざっぱで簡易なもの であるが、音楽には 合っている。 スカーフを投げるよ うな動作をするが、 手から離さず持って いる。クラスの子ど もたちが大きな円に なって座っている が、A 男だけ後ろを 向いて座ったり、円 の真ん中に入ったり している。	（録画された画面に 映っていないため、 観察無し）	A 男の横に立ち、ス カーフを持たずに大 きな声で歌いながら 子どもたちと同じ動 きをする。視線はク ラス全体に向いてい る。 B 子と C 子のトラブ ルに気づいている が、しばらく見守る。

	<p>「みんなのスカーフ、何になった？」</p> <p>子どもの近くへ行き、一人ずつ意見を聞いていく。</p>	<p>「○○になった！と口々に言う。</p> <p>聞かれている子のスカーフを身を乗り出すようにして見て、一緒に考えている。</p> <p>「サメ！」と答えた子 のスカーフを、身を 乗り出して見入っ ている。</p> <p>「お花！」「アイス！」 など一人ずつ発言。</p>	<p>床にお尻をつけて座り、スカーフをかぶって遊びだす。保育者を見上げている。講師が他の子に「これはなあに？」と指を差したスカーフを時折覗いて見る。講師の動きを追うように体の向きを変えながら、興味を持って講師を見ている様子。</p> <p>足を投げ出し座ったまま、スカーフを振り回す。口をあけて嬉しそうな表情。</p> <p>笑顔で講師を見上げ、近くに来てくれたことを嬉しそうにする。</p> <p>子どもたちの円の中に座り、スカーフでしきりに遊んでいる。かぶる、肩にかける、よだれかけの様に首にあてる。座ったまま手足をバタバタさせ、嬉しそうにしている。</p> <p>スカーフを被り、スカーフ越しに見える風景を楽しんでいる。保育者、天井（電灯）、講師などを順番に見ている。</p> <p>他の子が立ち上がった後も、円の真ん中で座ってスカーフをかぶっている。</p> <p>触ってはいけないことになっている床のスカーフを触ったり、口に咥えたりしている。被ったスカーフを取り、視界の違いを確かめている様子。</p>	<p>時折B子を見て気にしている。</p> <p>泣いているB子に声をかけ、諭す。</p> <p>笑顔でクラス全体を見守る。</p>
10:38	<p>『ぶんぶんぶーん』 2 回目</p> <p>「今度はみなさんも床のスカーフと同じ形になってください」</p>	<p>C子が泣いているB子を気にしている様子。</p> <p>「お母さんにあげるカーネーション！」 「お山！」</p> <p>「これねえ、かわいいお魚！」</p> <p>大きな声で歌いながら動いている。B子は泣いたまま立ち上がらない。</p> <p>スカーフが床に落ちるのを見て、「あはは」「うふふ」と歓声をあげる。それぞれ床に横たわったり、座ったりして、スカーフの形を真似る。</p>		
省略				

表 2 活動例 2

	活動内容と 講師の動き	クラスの園児たちの 動き・様子	A 男の動き・様子	保育者 a の動き・様 子（主にクラス全体 を担当）	保育者 b の動き・様 子（主に支援を必要 とする園児を担当）
10:40	『なわとびであそぼ う』 「今度はそのスカー フを持って散歩に 行きます」 (音楽が始まる) 「1. 2. 1. 2!」 と声をかけながら、 スカーフを振り、行 進を始める。 (音楽) 波 (音楽) 行進 (音楽) へび (音楽) 行進 (音楽) 変な踊り (音楽) 行進	すぐに立ち上がり、 歩き出す準備をす る。 歓声をあげながら歩 き始め、スカーフを 上下に振る。 音楽に合わせて、ス カーフを大きくなび かせている。 歓声をあげながら、 リズムに合わせてス カーフを振り、歩き 出す。 キャーキャー言いな がら、スカーフを床 に這わせて後ずさり する。 音楽に合わせながら 動いている。 身体をくねらせ自由 に踊る。「わはは」と 笑っている。 嬉しくて跳ねている 様子や、友だちと目 を合わせてお互いに 楽しんでいる様子が 見られる。 一度、気をつけをし てから、音楽に合わ せて元気いっぱい 歩き出す。	保育室の真ん中に 座ったままスカーフ で遊んでいる。 しばらくしてから立 ち上がる。 CD プレイヤーの前 に座り、プレイヤー をじっと見ている。 急いで立ち上がり、 みんなと一緒に歩き 出す。足の動きはリ ズムに合わず速い。 スカーフを小刻みに 振りながら保育室の 中を小走りする。 再び CD プレイヤー の方へ向かう。 まだ CD プレイヤー が気になり、スカー フをいじりながら眺 めている。スカーフ (クリーム色) を顔に かける。 保育者に別の色のス カーフをかけてもら い、視界が変わった ことを楽しんでいる 様子。 保育者を見上げてい るが、また CD プレ イヤーの近くへ行こ うとする。 音楽の変わり目で、 再びスカーフを縦に 振って歩き出す。	子どもたちと同じス カーフを持って、一 緒に動く。 保育者 b が、B 子 の対応をしているた め、A 男のもとへ近 づく。 保育者が持っている 別の色(紫)のスカー フを、A 男の頭に重 ねてかけ、A 男の気 を逸らす。 CD プレイヤーと A 男の間に立ち、踊っ ているようなフリを しながら、A 男の視 界を遮る。 踊りながら横移動を し、A 男を CD プレ イヤーに近づけない ようにしている。 まだ CD プレイヤー の前に立ったまま、 一緒にスカーフを 振って、A 男を見送 る。	A 男が立ち上がらな いと危険なため、様 子を見ながら近寄 るが、A 男が立ち上 がる動きをしたため、 すぐに後ろに下がる。 その場で足踏みをし て、子どもたちを見 守る。 A 男のそばへ移動し、 スカーフを持たずに 一緒に動いている。 笑顔で A 男を追うよ うにして歩き出す。 B 子がまだ泣いてい たので、背中を触り、 顔を近づけて話をす る。

	<p>(音楽) 植物が育つ スカーフをまるめ種 に見立て、床に置く。</p> <p>芽が出るように徐々にスカーフを伸ばし、最後にスカーフを投げて取る。</p> <p>(音楽) 行進 A 男の背中をポンポンと触り一緒に歩くポーズをする。</p> <p>(音楽) ヘビ</p> <p>(音楽) 行進</p> <p>(音楽) 変な踊り</p> <p>(音楽) 止まる</p> <p>(音楽) 植物が育つ A 男の顔を笑顔で見ながら、だんだん立つ。</p>	<p>スカーフをまるめ、講師をよく見ながらまねをする。</p> <p>歓声をあげながら、投げたスカーフをキャッチしようとしている。</p> <p>音楽に歩調をしっかり合わせている。</p> <p>キヤーキヤー言いながら逃げている。</p> <p>逆行してくる A 男を上手によけながら、あまり気にせず活動に集中している。</p> <p>講師がスカーフをかぶって踊りだしたので、同じようにスカーフをかぶって踊る子が多い。</p> <p>直立して停止する。</p> <p>先ほどと、同じ音楽のため、最後にスカーフを投げて取ることがわかっており、ワクワクしている様子。</p>	<p>周りの子が種まきの動作をして座っている中、一人ですたすと歩き、またプレイヤーの方へ進む。</p> <p>C D プレイヤーの前に座り込む。</p> <p>立ち上がり、講師の横へ来て体に触って見上げる。一緒に歩く。</p> <p>走って保育者 a の近くへ行き、スカーフを床に這わせ、真顔でヘビらしきものを表現する。</p> <p>笑顔で歩き出すが、みんなと逆行する方向に歩き始める。</p> <p>C D プレイヤーに向かう。</p> <p>突如違う方向（講師の荷物とカメラのある方向）へ走り出す。</p> <p>すたすと講師のもとへ歩いてきて、ぴたりと隣に座る。膝を曲げて立つことができず、まず両手を床に付けて、お尻を上げてから立つ。</p> <p>直前の呼吸が音楽に合わず、投げるタイミングが合わない。</p> <p>スカーフをかぶって、保育者 b のもとへ行く。</p> <p>近くのビデオカメラに気付き、笑顔で指を差し、ポーズをとる。</p>	<p>A 男のそばに立ち見守る。</p> <p>C D プレイヤーの前でスカーフを持って子どもたちと同じ動きをする。</p> <p>A 男に対し笑顔でうなずいて応答する。</p> <p>A 男が逆行すること、少し危険な状況であるため、A 男の動きを見て注意を払っている。</p> <p>C D プレイヤーの近くから離れていなかったため、向かってくる A 男とプレイヤーの間に立つ。</p> <p>踊っているフリをしながら、横移動し、A 男の視界を遮る。</p> <p>クラス全体を見ている。</p> <p>C D の音楽を停止する。</p> <p>たたんだスカーフを片づける袋を出し準備する。</p> <p>袋の口を開き、子どもたちが片づけに来るのを待つ。</p>	<p>泣き止んだものの、まだ気分の乗らない B 子の補助をし、一緒に動いている。</p> <p>B 子が落ち着いたため、また全体を見守っている。</p> <p>子供たちと一緒に歩きながら、A 男の動きを見て注意を払っている。</p> <p>すぐに子どもたちの輪から離れ、A 男の背中に触れて、みんなの方へ戻す。</p> <p>A 男のスカーフを受け取り、たたみ始める。</p> <p>A 男の両肩を後ろから持ち、汽車ごっこのような動きで、カメラから離す。</p>
10:43	<p>お片付け</p> <p>(次の活動へ)</p>	<p>床にスカーフを広げてたたみ始める。薄くて大きめの布地なので、きれいに広げるのが難しい。</p> <p>たたみ終わった子どもから、保育者 a の持つ袋へ入れている。</p>			

に合わず、音楽にタイミングを合わせて投げることができなかった。投げる際には、他の子どもたちと似たような動きをするものの、気に入っているスカーフから手を離すことができず、振り上げるような動作をするのみであった。上に投げたスカーフをキャッチせずに床につくまで見守る行為は、健常児であっても忍耐力を必要とするだろう。4歳児にとって少々難しい動きをする際には、周りの子どもたちと同調せず、一人の世界を楽しんでいるようであった。

このように、周りの子どもたちとリトミック活動を共有する時間と、周りに同調せず個人の世界を楽しむ時間を常に往復している様子が見られたが、A男の表情からはクラス全体の楽しそうな様子を感じていたものと思われる。

更に、講師である筆者が近づくと、とても嬉しそうな表情をしていたことから、A男はリトミックの活動が好きであると推測することができる。

(2) 保育者の動きと援助に関する考察

A男と保育者の動きを丁寧に追ってみると、保育者がその場の判断で臨機応変に動いていることがわかった。ここは通常の保育園であり、また、観察したものがリトミックのレッスンであるため、他の子どもたちを育成することも重要である。保育者はA男が過ごしやすいようにするだけでなく、他の子どもたちの集中の邪魔をしないように、みんながA男を気にすることなく伸び伸びと活動できるように、そしてA男だけでなく、みんなのことも見ている、気にしているのだということがわかるように細心の注意を払って動いていた。

まず、クラス全体を担当する保育者aは、子どもたちの前ではなく横に立ち、子どもたちと活動を楽しみにする気持ちを共有していた。また、主にA男を担当する保育者bは、椅子に座っているA男の横で同じ高さになるようにしゃがみ、一番後ろの端で、クラス全体も見えるように位置していた。

次に、スカーフを持って動く際には、保育者の一人はスカーフを持って子どもたちと一緒に移動し、もう一人はスカーフを持たずに、大きな声で歌いながら動き、臨機応変に対応できる体制を作っていた。CDプレイヤーに興味を持ったA男が、もし音楽を止めてしまったら、クラスの子どもの集中力は切れ、楽しさは半減し、活動は途切れるだろう。しかしA男を無理に部屋の外へ連れ出せば良いというわけではない。A男も音楽が好きで、A男なりに育っており、音楽を覚え、気に入っている曲をリクエストしてくることもある。そこで保育者は、活動中の雰囲気を変えないように、楽しそうに踊りながらA男の視界を遮ったり、持っていたスカーフをA男の頭にかけるなどして、A男の興味をCDプレイヤーから逸らそうと工夫していた。そしてその後もA男はCDプレイヤーが気になり、何度も近づくが、保育者はそのたびに丁寧に接していた。

また、A男が、他の子どもたちと行進をする際に、いつまでも床に座っていたり、子どもたちと逆行して歩くなど、危険を伴う動きをした時には、保育者はA男のそばに近寄るものの、すぐには手を出さず、周りの子どもたちの動きや、A男自らが危険を察知して動くかどうか判断をしながら待つ場面があった。そして、A男が自ら動くしぐさをした時には、迅速にそばを離れ、できるだけ介入しないよう意識して見守っている様子が見られた。

更に、主にA男を担当している保育者bが、泣いているB子の対応をしている時には、保育者aが担当をスムーズに入れ替わりA男の対応をしていた。インクルーシブ教育の現場では、このような連携と、きめ細やかな支援が重要であろう。

(3) クラスの子どもたちの動きと様子に関する考察—インクルーシブ保育の視点から—

活動例1『ぶんぶんぶん』では、歌いながら、音楽のリズムやニュアンスにしっかり合わせて

スカーフを動かすことができていた。床に落ちたスカーフを何かに見立てる際には、自分のスカーフに注目し、講師が他の子どもたちに一人ずつ意見を聞く場面では、多くの子どもが身を乗り出し、発言している子どもの考えを共有しようとする積極的な姿が見られた。また、活動例2『なわとびであそぼう』では、盛り上がり楽しみつつも、音楽を聴こうと集中する姿がほぼ全員に見られた。

注目すべき点は、活動中にA男が他の子どもたちと著しく違った行動をしていても、それに影響される子どもがいなかったということである。A男のいる環境に慣れているからという理由の他に、“リトミック活動が楽しいから”ということも挙げられるだろう。A男がスカーフを被って遊んでいて楽しそうに見えても、それより、床に落ちたスカーフを見て想像を膨らませることや、友だちの考え方に興味を持つこと、音楽をよく聴いて表現したり、リズムに合わせて体を動かす方が楽しいと感じ、無意識下で選択しているのである。常にこのように上手くいくわけではなく、雨の日で子どもたちが何となく発散したい気分の時や、疲れた時などは集中できないこともあり、講師にも工夫が求められる。

また、A男が、他の子どもたちと行進をする際に、いつまでも床に座っていたり、子どもたちと逆行して歩くなど、危険を伴う動きをした時には、子どもたちは上手に回避して動いていた。こういった点は、“共に育ちあう”一例であると言えるだろう。

更に、観察した活動中のB子のように、健常児であっても場合によって支援を必要とすることは、他の活動においても多いだろうと感じる。

5. まとめ

今回観察したリトミック活動の内容は、子どもたちそれぞれが思い思いに動き、その子なりの満足感を得ることができ、個々に育つことができるものである。その点から、インクルーシ

ブ保育に適している内容であったと言えるだろう。リトミック活動の中でも全員で停止や静寂を楽しむものや、子どもたちが想像の中に入り込み集中して活動するものは、うまくいかないこともある。クラスの子どもたちにとっては、連帯感や達成感を体験することも必要であろう。この活動の時間中、A男が部屋を出ることはなかったが、脱走する子どもや、機嫌の悪い時に大声をあげたり暴力的になる子どももある。健常児にとって、障がいを持つ子どもと過ごすことは、多くのことを学ぶ機会でもあるが、やはり、より充実したインクルーシブ保育を実現するためには、我々の多様な工夫を必要とする。

今回のように焦点を絞って観察を行なうことで、より詳細な部分が見えてきた。A男が座り込んでスカーフで一人遊びをしていても、行進風の明るく拍感のはっきりとした音楽の時に、すくっと立ち上がり音楽に合わせて歩き出すことが何度か見受けられたことから、周囲と違った行動をしていても音楽を聴いているということ、周囲の雰囲気を感じ、どのように動くべきか見ているということなど、多くのことがわかった。また、そのような行動が多く見られたのは、行進風の曲が流れた時であることから、音楽の本質的な力を感じていたのだろうと思われる。

保育者においては、視野を広く持ち、お互いに連携を取り合いながら、丁寧に保育をしている様子が見られた。また、A男やクラスの子どもたちに対して、援助をするだけでなく、意図を持って見守る様子が印象的であった。

今回のような活動事例から、インクルーシブ保育におけるリトミック活動の効果的な側面を垣間見ることができたのではないかと考える。今後も、音楽の持つ力を生かしながら、多様で柔軟な対応ができるリトミック活動を模索していきたい。

参考文献

- 1) 文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査について」
2012 年
- 2) 文部科学省「特別支援教育の体制整備の推進」
2010 年
- 3) 本郷一夫、長崎勤編著『別冊発達 28 特別支援教育における臨床発達心理学的アプローチ』ミネルヴァ書房、2006 年、p.251
- 4) 梅永雄二、島田博祐編著『障害児者の教育と生涯発達支援 改訂版』2007 年、p.125